



日本SPF豚協会だより

Report of JAPAN SPF Swine Association 2013.7 第52号



提◆言

日本SPF豚協会が今後向かうところは…

一般社団法人日本SPF豚協会 理事
(株)林商店 代表取締役

林 寛康

協会に求められる二つの活動

日本の養豚業界が飼料の高止まり現象に苦しみ、出口の見えない状況の中、「日本SPF豚協会」が今後進むべき道について、今一度考えてみたいと思います。

今まで理事会等で何度も話してきましたが、これからの協会には二つの活動が強く求められてくるのではないかと思います。

一つは1軒でも多くの生産者にまずSPF種豚を導入してもらいSPF養豚に変換してもらうこと、もう一つはSPF豚農場で生産された「SPF豚肉」を消費者あるいは流通業者、量販店、小売店、飲食店などに広く正しく知ってもらうことです。

SPF豚生産農場戸数を増やすことは皆さんも疑問を感じないと思いますが、これは認定農場と一般のSPF豚飼育農場との区別、すなわち協会の認定制度とも深く関わってくることであり、これから大いに検討を重ねる必要があると思います。全国の飼養母豚頭数に対して、30%のシェアは欲しいと思います。この割合を上げることが二つめの課題であるSPFポークの認知度を高めることにもつながっていくからです。

今でも「SPFポークは無菌豚ですか?」「SPF豚だから生でも食べられるって本当ですか?」などの問い合わせがあり、多くの誤解があるのも事実です。協会がこの二つの課題に前向きに、しかも柔軟に対応していければ、日本の養豚においてSPF豚が占める割合が増えるだろうと期待しています。

正しく認識してもらう努力を怠ってたのでは

養豚家の中には今でも「SPF豚はきれいだから自分の農場へ入れたらすぐに死んでしまうのではないのか?」などと言う人もいます。協会は養豚家に対して正しくSPF豚を認識してもらう努力を怠ってきたのではないのでしょうか? SPF養豚関係者だけの活動

が多すぎたのではなかったでしょうか?

私自身も10年前から養豚経営の真似事をしてますが、SPF養豚のメリットを実感できるほどの成績を出せずに悩んでいます。私の住む千葉県のような養豚密集地帯でのSPF豚飼育に疑問を感じている方も多いと思います。しかし、逆に密集地だからこそ、病気がより少ない種豚を導入し、地域の病気の浸潤度合を低下させ、疾病をコントロールしていく必要があります。ますます高まってきているのではないのでしょうか?

今後厳しい国際競争を生き抜くために、他の養豚場から隔離された場所ですべて自己完結させ、外部からの生体搬入は一切行わないという大規模経営も出てくるかもしれませんが、もし病気の侵入を許したらそのリスクは大きく、回復には膨大な資金が必要となり、多くの養豚家が真似できることではありません。

外部から導入する育成種豚の導入コストを低く抑えることができれば、更新率を高め維持して繁殖成績ひいては肥育豚の発育、肉質改善にも好影響を与え、総合的にコストダウンができると思います。

開かれた関係構築こそ協会の役割

これからの日本養豚の生き残りを考えた時に、SPF豚に関わる人たちとだけの議論は、とても危険な要素をはらんでいるような気がします。

消費者、流通業者、量販店、小売店、飲食関係者などと、開かれた関係をつくるのも協会ならではの仕事ではないかと考えます。もちろん、限られた予算や人員面でなかなか厳しいとは思いますが、各ピラミッドや生産者の応援を得られれば、決して難しいことではありません。

今後、協会の活動がどんどん広がり、その存在がSPF養豚家ならびに日本の養豚業にとってなくてはならないものになるよう、心から願っています。

今年度の社員（代議員）総会を開催

事業計画、役員改選案など全ての議案を承認

今年度の定時総会（代議員会）は6月12日（水）、東京都千代田区のKKRホテル東京において開催されました。昨年度の事業経過報告はじめ同決算および監査報告、役員の改選、今年度の事業計画および予算案、認定規則改正案などすべての議案が承認されました。概略は次の通りです（会員の皆さまには議案および議事録をすでにお送りしてあります）。

H24年度事業経過報告

6月米国で発生した大規模な干ばつによりトウモロコシが大幅減産、8月にはトウモロコシ価格が史上最高値を記録しました。また、国内では台風等で農産物に甚大な被害がありました。年末に政権が交替、補正予算案が閣議決定され、養豚関連では畜産経営安定基金対策、畜産農家資金対策、畜産経営力向上緊急支援リース事業等への拡充が決定しました。しかし、資源高・原料高に起因する飼料・資材の高止まり等、先行きの不透明感は拭えません。農水省が推進している農場HACCPは、養豚関係では推進農場が37農場、認証農場が7農場となっています（1月現在）。

このような環境の中、協会はSPF豚農場認定制度を柱とし各事業に取り組みました。厳しい環境の中、認定申請を見送る農場もありましたが、認定農場数は189（GGP・GP農場20、CM農場169）、飼養母豚数は80,871頭となりました。

生産成績は、一貫経営で1母豚当たり年間出荷頭数が21.5頭（前年度21.4頭、全国平均18頭強）と若干の改善が見られました。A薬品費（抗菌性物質）は166円（全国平均900円弱）で前年度同様、農場飼料要求率は3.24（昨年度3.28）でした。繁殖-IIおよび肥育-II農場では、A薬品費の大幅な低減がありました。

SPF豚の啓蒙活動として、10月に開催された「ちくさんフードフェア」で、SPFポークの試食、アンケートおよびパネル展示を実施しました。11月にはSPF豚セミナーを開催し、150名に参加いただきました。

利用促進をお願いした認定シールの販売は5,800千枚（前年度比80.6%）に留まりました。協会オリジナルキ

ャップとTシャツの販売およびポークリーフレットの配布も継続しています。協会だよりは予定どおりり47号、48号、49号、50号を発行いたしました。

なお、2月に地域研修会を3年ぶりに九州地区で開催いたしました。主な事業経過はつぎのとおりです。

- ・ 4月16日（月）正副会長会議
- ・ 5月18日（金）平成23年度会計監査・正副会長会議
- ・ 6月7日（木）認定委員会
- ・ 6月13日（水）理事会および定時社員総会
- ・ 6月20日（水）臨時認定委員会
- ・ 8月7日（火）ちくさんフードフェア企画委員会
- ・ 8月22日（水）正副会長会議
- ・ 8月22日（水）生産成績優秀CM農場選考委員会
- ・ 8月28日（火）農場HACCP勉強会
（講師：農水省消費・安全局動物衛生課）
- ・ 9月13日（木）認定委員会
- ・ 9月21日（金）ちくさんフードフェア企画委員会
- ・ 10月6日（土）～7日（日）ちくさんフードフェア
（於川崎市：（財）日本食肉流通センター）
- ・ 10月22日（月）正副会長会議
- ・ 11月6日（火）SPF豚セミナー
（於東京：KKRホテル東京）
- ・ 12月3日（月）協会正副会長会議
- ・ 12月6日（木）認定委員会
- ・ 1月22日（火）協会正副会長会議
- ・ 2月21日（木）九州地区地域研修会
（於熊本：水前寺共済会館）
- ・ 3月7日（木）認定委員会
- ・ 3月22日（金）臨時認定委員会
- ・ 3月29日（金）理事会

H25年度事業計画

防疫設備基準、防疫管理基準の徹底

S P F 豚農場認定規則及び関連する基準、細則に基づき、厳格な運用を行います。

認定委員会の開催

S P F 豚農場認定事業を推進します。認定委員会は、6、9、12、3月の計4回開催します。

S P F 豚農場認定制度の見直し

S P F 豚農場認定制度も20年目を迎え、制度そのもののあり方について検討すべき課題も出てきております。そこで「S P F 豚農場認定制度見直し委員会」（仮称）を設置し、制度全体の見直しに着手します。

認定成績集計結果のフィードバック

引き続きS P F 豚農場認定申請にともなって提出される生産成績を集計して、認定証発行時にこれまでの成績の推移を、また年度末に、各認定項目の順位表を、各ピラミッドを通じて農場にフィードバックします。ベンチマーキングに活用して農場成績の改善に役立ててもらいます。また、地域研修会等でも検討会を持ちたいと思います。

生産成績優秀CM農場の表彰制度の継続

例年通り、生産成績優秀CM農場を選考委員会により選定、セミナーで表彰します。さらに、新たな表彰の対象項目についても検討を加えていきます。

ピラミッド会議の開催

円滑な事業推進のためピラミッド会議を随時開催し、成績低迷農場の改善策、会員拡大検討策、セミナー・地域研修会・技術懇談会等のテーマについて検討を行います。

S P F 豚セミナーの開催

11月、KKRホテル東京での開催を予定しています。テーマ等については、ピラミッド会議で検討します。

地域研修会と技術懇談会の開催

日時、場所、テーマ等はピラミッド会議で検討します（候補：東北地区）。開催地域の優秀農場を中心にした技術情報交換会もあわせて検討します。

協会だよりの発行

協会だより51号（4月）、52号（7月）、53号（10月）、54



号（1月）を発行します。会員へのインタビュー、S P F ポーク販売の取り組みなど、引き続き取り上げます。

販促用資材の制作と普及

店頭用ポークリーフレット、協会パンフレットを引き続き希望会員に無料で配布します。認定農場向け協会オリジナルキャップとTシャツの販売も継続します。

S P F ポークに対する正しい知識の普及

全会員と協力し、様々な機会をとらえ、S P F 養豚の仕組みと生産情報がわかるような正しい「S P F ポークに関する知識の普及」に努めます。

●イベントへの参加

今年も「ちくさんフードフェア」（10月12～13日）に参加します。また、アグリフードE X P O等のイベントへの出展を検討します。さらに、地方で開催されるイベントに参画できないか検討します。

●S P F ポーク販売店情報の収集、整備

協会だよりの取材等で訪問したS P F ポーク販売店に協会または生産者のサイン入りの記念品などを進呈できないか検討します。また、認定農場のネット販売状況を調査、情報提供します。さらに、食育の一環として、幼稚園や保育園、調理学校などを対象とした試食会の開催を検討します。

●認定シールの利用促進

認定シールの運用規則を見直し、利用しやすい方法を検討します。また、認定農場にプライベートシールへの刷り込みをお願いしていきます。

●S P F 豚啓蒙用資材の制作と展示

S P F 豚の特徴についてのパネルや、ダンボールアイソレーターと保育室、認定農場のジオラマなどを作成しS P F 豚をわかりやすく紹介する資材として、セミナーの会場等に展示します。

レプトスピラ症

東京農業大学教授 山本 孝史

本病はわが国では豚の疾病として注目度が低いように思われますが、海外では重要な疾病として認識されています。筆者が2003年から3年間滞在していたメキシコの診断ラボ（ハリスコ州エル・サルト家畜疾病地域診断所）においても、日常の抗体検査の項目に入っていました。今後はわが国においても流死産の原因究明時には常に本病を想定するとともに、診断体制の充実が望まれます。

原因：レプトスピラはスピロヘータの一種で、菌体は細長くらせん状です（図1）。分類学的には13菌種と5遺伝種に分類されていますが家畜に病気を起こすのは、*Leptospira interrogans*のみです。しかし、本菌種には多くの血清型があり、その各々に名前がつけられており、正式には*Leptospira interrogans serovar* 血清型名（例えばPomona）のように表記すべきですが、便宜的に血清型名のみが用いられることが多いようです。家畜伝染病予防法では、Pomona, Canicola等7血清型による牛、豚、犬等の疾病が届出伝染病となっています。本菌は酸性、熱、乾燥といった条件には弱いですが、中世～弱アルカリ性の水や土壌中では長期間生存して感染源となります。また、宿主域はきわめて広く爬虫類や魚類を含め120種以上に及ぶとされていますが、中でもネズミは、不顕性感染し抗体の影響を受けない腎臓の尿管に定着しほぼ一生の間尿中に排菌し続け、環境を汚染して感染源となります。

豚のレプトスピラ症の原因となる血清型は国によりばらばらで、またどの国にも複数の血清型が存在しますが、世界的にはPomonaが最も多いとされています。わが国では、Pomonaの他、CanicolaやIcterohaemorrhagiae等数種の血清型が知られています。

症状・疫学：すべての年齢の豚が感染しますが、幼弱豚と妊娠豚以外は不顕性に経過します。幼弱豚では、軽い発熱や食欲不振の他、黄疸や血尿が見られることがあります。しかし発症豚はわずかで、また数日で回復するので普通は見過ごされてしまいます。妊娠豚では、流死産

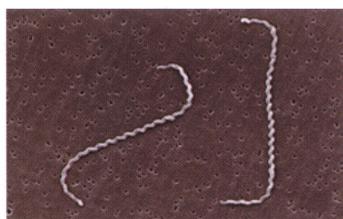


図1 レプトスピラの菌体。長さ6-20μでらせん状（原図：参考文献2）

や虚弱子豚の娩出が見られます。わが国におけるレプトスピラ症の発生報告はすべてこのような異常産です。これまで、愛知、沖縄、群馬、千葉、岡山等でレプトスピラによる流死産が報告されていますが、中でも沖縄県では常在化しているのではないかと推測されています。流死産は初産あるいは2産目に多く、また妊娠後半の81日以降が圧倒的に多いことが明らかにされています。



図2 流産胎児の皮膚の点状出血（原図：参考文献1）



図3 流産胎児の肝臓の壊死巣（原図：参考文献1）

パルボ、日脳などのワクチンを接種しているにもかかわらず、流死産や虚弱子豚の娩出が散発的にみられる場合は、本病を疑い検査を依頼しなければなりません。特にそれまで実施していた抗菌剤の飼料添加を中止した後発生した場合やネズミが出入りする湿潤な豚舎の場合はなおさらです。

病変は、ミイラ化していない流産胎児では、皮膚の点状出血や肝臓の壊死巣、肺の出血等が特徴的です（図2,3）。

対策：ネズミ対策や豚舎の床面をできるだけ乾燥させることが重要です。また一部の血清型には人工授精が有効とされています。予防には、レプトスピラ6血清型にパルボウイルスおよび豚丹毒菌培養上清を混合した不活化ワクチンが市販されています。またクロールテトラサイクリン(400 g/ton)あるいはオキシテトラサイクリン(500 g/ton)の飼料添加は、発症予防に有効であることが報告されています。発症した場合にはストレプトマイシン(25 mg/kg)が有効です。

<参考文献>

1) Smith, W. J. et al. (1990). A color atlas of diseases and disorders of the pig. Wolfe Publishing Ltd., 83-84.

2) Wikipedia.Leptospira.

<http://en.wikipedia.org/wiki/Leptospira>

豚舎周辺に生息するハエ類Ⅲ

イカリ消毒(株)技術研究所 木村 悟朗

前回は物理的防除についてまとめました。今回から化学的防除についてまとめます。化学的防除とは、殺虫剤や忌避剤を用いる方法です。

動物用医薬品等

動物用医薬品は専ら動物のために使用されることを目的として農林水産省が許可している殺虫剤であり、厚生労働省が許可している防除用医薬品(衛生害虫用)と明確に区別されます。どちらも薬事法の下で製造販売されているという点では同じです。また、動物用医薬品の中には防除用医薬品と同じ有効成分のものもありますが、投与する動物に応じて、有効成分の含有量や剤形が専用に設計されています。家畜や畜舎等では動物用医薬品・医薬部外品に指定されている殺虫剤を使用します。

殺虫剤の使用

これまでに、ハエ類・カ類(以下、ハエ)が豚舎においてしばしば問題になることをまとめました。ハエ対策は卵・幼虫・蛹を防除する発生源対策と成虫対策が基本となります。発生源対策は除糞などの環境的対策が有効ですが、労力の問題から殺虫剤を使用することもあります。発生源対策で特異的に用いられるものとして昆虫成長制御剤(Insect Growth Regulator: IGR)があります。IGRは「幼若ホルモン様物質」と「表皮形成阻害剤」に大別されます。前者は蛹化と羽化、後者は幼虫の脱皮、蛹化および羽化を阻害します(写真1)。すなわち、IGRは成虫以外の発育段階(有効成分により作用時期は異なる)に有効です。また、IGRは人畜に対する負荷が少ないという利点もあります。一方、成虫対策は壁や天井などハエの休息する場所にあらかじめ散布しておきハエに薬剤を接触させる方法(残留散布)や、空間に散布する方法(空間散布)があります。



写真1 イエハエ蛹。左：正常、右：IGR処理

残留噴霧には残留性のある有機リン系やカーバメイト系の薬剤、空間散布には速効性のあるピレスロイド系の薬剤が用いられます。また、成虫対策にベイト剤(食毒剤)が用いられることもあります。ベイト剤は、ハエ取りリボンやハエ取りシートと同様に、ハエのよく集まる場所に設置することが重要です。毒餌は殺虫成分の環境への流出が他の殺虫剤に比べて非常に少ないため、環境への影響を最小限に抑えることができます。また、吸血性ハエの対策として、殺虫剤や忌避剤を畜体へ直接利用することもあります。殺虫剤による防除はハエが大量に発生したときの緊急的対策として有効ですが、経済性や安全性の問題に加えて、薬剤抵抗性を発達させる可能性があります。薬剤抵抗性については次号でまとめる予定です。

殺虫剤の名称

殺虫剤にはいろいろな呼び名があります。例えば、有機リン剤、フェニトロチオン、スミチオン、MEP、乳剤、油剤などです。有機リン剤は化学構造からみた殺虫剤のグループ名、フェニトロチオンは有効成分の一般名、スミチオンは商品名、MEPは農薬としての名称、乳剤や油剤は剤型をそれぞれ示しています。いくつかの製造販売業者から「〇〇スミチオン乳剤」という商品名称で販売されていることもあれば、全く別の商品名称で販売されていることもあります。また、同じスミチオン乳剤でも、防除対象によって希釈倍率も異なるため、商品ラベルに書かれている用法用量を確認して散布する必要があります。

<参考文献>

- 動物医薬品検査所(2013) 動物用医薬品等データベース. http://www.nval.go.jp/asp/asp_dbDR_idx.asp (accessed 29 May 2013)
- 動物医薬品検査所(2013) 動物用医薬品に関する法令・通知. http://www.maff.go.jp/nval/hourei_tuuti/ (accessed 29 May 2013)
- 害虫防除業中央協議会(2011) 防除作業従事者研修用テキスト(平成21年度版). 害虫防除業中央協議会, 東京.
- 木村悟朗(2012) 豚舎周辺に生息するハエ類I. 日本SPF豚協会だより 47: 5.
- 木村悟朗(2012) 豚舎周辺に生息するハエ類II. 日本SPF豚協会だより 48: 5.
- 木村悟朗(2012) 豚舎周辺に生息するハエ類III. 日本SPF豚協会だより 49: 5.
- 日本動物用医薬品協会(2013) 人と健康と動物用医薬品. http://jvpa.jp/jvpa/?category_name=iyaku (accessed 29 May 2013)
- 中央畜産会(2013) 畜産経営技術Q&A情報検索. <http://library.lin.gr.jp/index-qa.php> (accessed 29 May 2013)

浅野農場スマイルポーク

北海道石狩郡当別町対雁10 TEL.0133-22-4129 FAX.0133-27-5180
http://www.asanofarm.com

今回ご紹介するお店は前号の「SPFのひと」にご登場いただいた北海道当別町の浅野農場の直営店「スマイルポーク」です。

同じ当別町内の交通量の多い道路に面した場所にある店舗がオープンしたのは5年前。特に宣伝などしなかったそうですが、口コミで評判が広がり、今では札幌からわざわざ買いに来たり、滝川市から電話で予約してから来る人もいるほどだとか。売り上げも順調に伸びているそうです。店頭販売が中心ですが、ネット販売にも取り組んでいて、関東地方のリピート率が高いそうです。

「脂がちがいますから。一度食べたら他のところの肉は買えなくなります」と従業員の斎藤操さん。製造部長である町屋裕二店長と7名のパートさんで店を切り盛りしています。

毎週出荷する自農場産を引き取り、と畜後、店舗でカット、加工します。地元の学校給食の入札にも毎月参加し、老人ホームにも納品するなど、「地産地消」を実現しています。

自慢は多彩な品揃え。精肉ではもも肉の一番やわらかい部分を「しきんぼう」としてブロック販売したり、豚ジンギスカン用、豚蒲焼きの具などの味付肉を商品にしたり。加工品ではユニークな「愛犬・飼い主共用豚軟骨」（調味料なしで長時間煮こみ人が食べてもペットが食べてもおいしいと



多彩な加工品（上）と精肉類（中）
店舗に隣接する加工場（下）

店舗入口にはフードスタイルリストやプロのカメラマンに依頼して撮影した見事なオリジナルポスターが（下）

のこと）や骨付きハム・ベーコン・ソーセージ・スモークレバー、ホルモン類まで盛り沢山です。さらに、手作りお弁当も販売、配達も行なっています。直売の強みを生かした、本物が手に入るお店です。

● 協会からのお知らせ ●

● 代議員・役員交代

今年度は協会理事の改選時となっております。先の総会で下記の理事13名を選出、承認されました。また、組織内人事異動等により下記の通り3名の代議員が交代し監事も1名交代となりました。（順不同、敬称略）
＜代議員・理事＞北島 克好（会長、全農畜産サービスピラミッド）、秦 政弘（副会長、サンエスブリーディングピラミッド）、三枝 泰裕（新任、副会長、シムコピラミッド）、上野 啓介（新任、伊藤忠飼料ピラミッド）、清澤 博明（新任、ホクレンピラミッド）、大関 輝男（日本農産工業ピラミッド）、日浅 文男（有道南

アグロ）、石川 輝芳（農）しわひめスワイン）、林 寛康（株林商店）、下山 正大（有下山農場）、小椋 和典（株西日本ジェイエイ畜産）、西原 登（株ファームテック）

＜理事＞藤田 世秀（日本SPF豚協会）、
＜代議員・監事＞川島 力（新任、株ユキザワ）

[退任]

＜代議員・理事＞鈴木 保（シムコピラミッド）、田畠 茂（伊藤忠飼料ピラミッド）、山内 一広（ホクレンピラミッド）

＜代議員・監事＞平井 勇（株ユキザワ）

肉団子の甘酢あんかけ～夏にさっぱり、ジンジャー風味～

●レシピ提供・中国料理「亀山 しらかわ」シェフ 白川 貴久（三重県亀山市）

今回はちょっと変わって中華のメニューです。夏を代表する野菜・苦瓜（ゴーヤ）と肉団子を、しょうがを効かせたさっぱりした甘酢でいただく逸品をご紹介します。

●材料●

SPFポークのミンチ 200g
苦瓜 4分の1本
パプリカ（赤と黄） 少々
白ネギ 1本
卵 1個
酒 大さじ1
しょうゆ 大さじ1
塩・こしょう 少々
片栗粉 大さじ1
ごま油 少々
揚げ油 適量

<甘酢ソース>

砂糖 60g
しょうゆ 大さじ2
酢 大さじ2
水 50cc
おろししょうが 大さじ1
水溶き片栗粉 少々



●作り方●

- ① 白ネギは白髪ねぎに、パプリカは薄くスライスして細切りにします。水にさらして色よく混ぜ合わせ水気を切っておきます。
- ② 甘酢ソースの材料を分量通り合わせておきます
- ③ 大きめのボールに豚ミンチを入れごま油以外の材料を加えて粘りが出るまでしっかり練り、仕上げにごま油を入れて混ぜます
- ④ ③をつみれをつくる要領で団子状にし、170℃の揚げ油で8割方火を通したら一旦取り出して温度を180℃に上げ、肉団子と苦瓜を揚げます。鍋から取り出したら余分な油を切っておきます。
- ⑤ 鍋に油少々熱して②を入れ香りととろみを出し、④を加えて全体をからめたら皿に盛り付け①のカラフル白髪ねぎを添えます。

【白川シェフからのアドバイス】

肉団子はしっかり練り表面をカリッと揚げて旨味を閉じ込めることでジューシーに仕上がります。甘酢ソースは果実酢を使ったり、砂糖を減らしていろんなジャムやパインジュースを加えるとフルーティーになるなど、アレンジもできます。

●認定情報●

●平成25年度認定農場

[6月認定] (有効期間:平成25年6月6日から26年6月30日まで)

北海道・(有)鈴木ビビッドファーム、青木ピッグファーム、(有)ゲズント農場、ホクレン養豚技術センター、(有)フロイデ農場、岩手県・FVファーム、秋田県・JA秋田しんせい肥育豚農場、福島県・(有)東和牧場、茨城県・(有)弓野畜産繁殖農場、同八郷農場、同千代田農場、(有)篠崎畜産、(有)奥田農場、群馬県・JA東日本くみあい飼料(株)利根スウィンセンター、千葉県・石毛宏司養豚、高橋幸雄養豚、塚本利昭養豚場、宮澤光男養豚場、(株)林商店、吉田道養豚場、江波戸SPF農場、(有)下山農場第2農場、(有)ピギー・ジョイ第1農場、木内養豚

第1農場、同第2農場、鳥取県・(株)西日本ジェイエイ畜産名和農場、岡山県・岡山JA畜産(株)荒戸山SPF農場、愛媛県・富永養豚場、旭養豚場、(有)多田ファーム、JA西日本くみあい飼料(株)愛媛養豚実証農場伊予スワインガーデン、佐賀県・JAさが富士天山ファーム、長崎県・JA全農長崎県本部五島種豚供給センター、(有)伊藤ファーム、浜田養豚、宮崎県・(有)レクスト、江夏商事(株)御池農場、クリーンファーム(株)、江夏商事(株)川南農場、鹿児島県・(株)かいたく大口農場、鹿児島いずみ畜産(株)三笠農場、(有)さつま農場（以上42農場）

※次回認定委員会は平成25年9月12日(木)の予定



(有)常陸牧場
矢吹 和人さん
●茨城県大子町市

スタッフを信じて我慢する 厳しくもやさしい2代目社長

茨城県奥久慈の山間に位置する母豚560頭規模の認定農場・常陸農場の矢吹和人社長は、協会女性関係者の間でも評判のイケメン。指折りのリーダーでありながらいち早くSPF養豚に取り組み、長く要職を務め養豚業界のリーダーとして知られた父省一さんの後を継ぎ、社長になられて15年になります。

小中学生時代、家には全国から研修生が集まり、大人に囲まれ「かなりませた」(和人さん)少年だった和人さん。地元の高校など眼中になく「北海道に行きたい!」と酪農学園に進学します。そのまま大学に進んだものの1年で中退。家に戻り、お父さんが当時経営していた農場に入ったそうです。「大学を卒業してたら、北海道に残って別の道があったかも…」と和人さん。

常陸牧場のスタッフは9人。養豚がやりたくて応募してきた3~4年目の若手を中心に、明るくパワフルな雰囲気に満ちています。「新人でもすべて任せて口を



弟である浩人専務(右から4人目)を中心に、常陸牧場を支えるパワー溢れるスタッフの皆さんと



矢吹和人さん・美智代さん



農場のシンボル、見事なブナの大木。銘柄豚「榊豚」(ぶなぶた)の由来にも(右)

出さない。最初は当然成績が落ちるけどそこは我慢。するとみんな成長する。それがうれしい。スタッフが成績を上げてくれることがありがたいですね」。月に一度の勉強会などの取り組みで成績も向上してきました。

「仕事面ではとても厳しいです」と奥様の美智代さん。中学の後輩で看護師だった美智代さんと病院で再会したのがなれそめとか。「昔も今も志が高いんです。そういうところが大好きです」と、大学生のお嬢さんと中学生の息子さんがいるとは思えない、はんなりとした美人奥様の一言で、和人さんの魅力が伝わります。

趣味は「今の車にないものがすべて揃っている」というクラシックカーでのドライブやサイクリング。最近は忙しくなかなか時間がとれないそうです。といつつ「スタッフのためにも、もう少し規模拡大したいですね」と和人さん。人間関係のよさが実感でき、またお会いしたくなる、すてきな方々でした。(編集部)

編集後記 今号の提言での指摘にもありますが、今年度事業を通して認定制度を含めた、今後の協会のあり方を模索していきたいと思っています。しかし、基本はSPF豚農場におけるバイオセキュリティ(農場防疫、自家防疫)の厳守であり「(病原性微生物を)持ち込ませず、持ち出さず」の精神です。SPF豚飼育に携わるすべての人がこの精神を理解し、規範としなくてはなりません。漫然と過ごすのではなく、この精神で行動できたか、一日を振り返ることが明日につながります。「人は易きに流れる」ものです。地道な努力が不可欠です。(世)



日本SPF豚協会認定農場産シール

このマークは
日本SPF豚協会の
登録商標です

日本SPF豚協会だより

第52号 2013年7月1日発行(季刊)
発行 一般社団法人 日本SPF豚協会
〒101-0032 東京都千代田区岩本町1-8-2
TEL.03-5835-5375 FAX.03-5835-5376
e-mail : j.spf.a@nifty.com
http://www.j-spf.com/
発行人 北島 克好
編集人 藤田 世秀